

ま え が き

南部は、多様な自然と肥沃な土地を有する地方で、最も豊かでベトナム最大の平野である。南部はベトナムの国家と民族に欠かせなくなった。「半島の中の半島」⁽¹⁾という特別な地勢(三方位が海と接する)と、陸と島との間の結びつきは、南部と地域圏に属する各国家や各領域との、さらには世界的な経済・文化的交流に有利な条件を作り出し、その後の南部の形成と発展史を充足する「内生的」および「外生的」要素をもたらした。そして、それらは互いに絡み合い、あらゆる側面において極めて特殊で、かつ特別の色彩を生み出したのである。現在に至るまで、南部は栄枯盛衰を経験し、王位が何度も交代した。さまざまな階層の人々がこの地を訪れ、誰もが多かれ少なかれ、豊かで現代的な南部の形成に貢献した。海の優位性は、扶南国の時代以来、南部経済の「開放的」性質を生み出した。それは、広南阮氏[主阮]がその経済政策を通じて、一般に塘中[ダンチョン 広南国]の転換に貢献した時期に、特に南部が17～18世紀の東西の接触に際し、国際貿易における各国間の商品輸送の中継地点となったことで、再度明確に体現された。その優位性はその後の各世代において発揮され、南部はより活発な市場となり、サイゴン(西貢)ーザーディン(嘉定)の地は後世に影響を及ぼす一時代、「極東の真珠」とよばれるほど栄えたのである。現在、ベトナムで、最大かつ最もエネルギーな経済の中心地であり、最も活発な市場であるホーチミン市を含む南部は、ベトナムのグローバル化に向けた交流と統合に大きく貢献している。経済および文化における「開放的」な性質は、また、南部の人々の特徴的な性格の形成にも寄与している。これらの基本的な南部の性格は、国民にだけでなく、世界の人達にも、ベトナムという国と人々に関して、より一層理解してもらうために、共有される必要がある。

現在、読者が手にしている本書は、ベトナム南部の歴史や文化の概要を人々に紹介することを目的として、各種の学術雑誌や国内外のシンポジウムの紀要に掲載された、筆者の南部地方に関する論文集である。

未だ完成されたものではないとは言え、本書の内容が、南部の新しい地方史と文化を生き活きと素描するには十分だろう。

我々は、読者からの意見や感想を踏まえて、本書が今後さらに改善されていくことを願っている。

監修注

(1) インドシナ半島の中の半島という意味である。